

太平洋とジョン万次郎

陸続きで一本の線を引かれただけの国境と違って、日本は海に囲まれた島国である。したがって大昔より外国との交流は物理的に困難で事実上の鎖国が続いた。日本人が自由に外国に旅を出来るようになったのは、東京オリンピック開催（1964・昭和 39）年前後からではないだろうか。1 ドル 360 円から 100 円前後にまで円高になった現在。サラリーマンの平均年間所得も 408 万円（平成 24 年度）となった。ハワイ、東南アジア、ヨーロッパ等の海外旅行も 10 万円から 30 万前後とリーズナブルの価格となった。2013（平成 25）年度の日本人出国者数は年間で 1747 万人となっている。

高知県の太平洋を眺める丘から広い海原を見つめていた。この海に先はどうなっているのだろうか。1827（文政 10）年に中濱萬次郎がここ高知県土佐清水市に生まれている。貧しい家に育った彼は読み書きすら出来ない環境であった。14 歳の時に漁師手伝いで船に乗ったが、嵐に遭遇し仲間 4 人と共に遭難。奇跡的に無人島に漂着して 143 日間後に、アメリカの捕鯨船（ジョン・ハウランド号）に救助される。万次郎はホイットフィールド船長に気に入られアメリカへと渡り、英語、数学、航海術等、数々の学問を猛勉強し身につけていった。これら全ての経験が今後の日本を左右することになるのである。

10 年後日本に帰国。時あたかもアメリカのペリーが浦賀に来て開国を迫る。万次郎にとっては最高の舞台が待っていた。万次郎の誰もが出来ない経験はその後の日本を救うことになる。幕府から招かれ直参の旗本の身分に。日米和親条約の平和的締結に貢献。翻訳、執筆、講演、通訳等々。更に福沢諭吉の「学問のススメ」、坂本龍馬の「船中八策」、三菱の創始者・岩崎弥太郎、勝海舟、板垣退助等々。読み書きできなかった子供のころより、開成学校（現・東京大学）の英語教授へ。私が子供の時から描いていた男の夢を全て万次郎は叶えてくれた。

撮影 2014 年春

